

海洋教育マトリックス

単独の教科領域等での学習

教科横断的活動

総合的な学習の時間

	海を知る	海に親しむ	海を知る	海を守る	海を利用する
1年生	水泳 ・ ライフセービング学習 (体育・学校行事)	「うみであそぼう」 (生活科・図画工作・音楽)		「いろいろなふね」 (国語科)	
2年生		「ぼうけん!はっけん!からくわの海」 (学校行事・生活科・図画工作科)			
3年生		未来に残そう面瀬の生き物たち (総合)	市の様子 (社会科)	水産工場に行こう (学校行事・社会科)	海藻肥料で野菜をつくろう (総合)
4年生		山川里海の命を育む面瀬川 (総合)	「自然の中の水の姿」 (理科)	「水はどこから」 (社会)	気仙沼おにぎりをつくろう (総合)
5年生		海と生きる気仙沼 (総合)	水産業のさかんな地域 (社会科)	環境を守るわたしたち (社会科)	「食べて元気に」 (家庭科)
			世界の中の国土 (社会科)	わたしたちの生活と森林 (社会科)	
6年生	魅せっぺプロジェクト (総合)	大地のつくり (理科)	地球に生きる (理科)	世界の未来と日本の役割 (社会科)	
		海のいのち (国語)		工夫しようおいしい食事 (家庭科)	
		カツオ漁の歴史を知ろう (社会科)			

海洋教育マトリックス

単独の教科領域等での学習

教科横断的活動

総合的な学習の時間

	海を知る	海に親しむ	海を知る	海を守る	海を利用する
1年生	水泳 ・ ライフセービング学習  (体育・学校行事)	<p>「うみであそぼう」 (生活科・図画工作・音楽) &lt;第一次&gt; 「うみであそぼう」 (生活科)</p> <p>○「うみ」など海に関する歌を歌い、海に思いをもつ。 ○磯の生き物を見つけ、海の生きもののおもしろさや不思議さに関心をもつ。 ○岩井崎での遊びを通して、磯での活動の楽しさを味わい、進んで生みにかかわることができるようにする。</p> <p>&lt;第二次&gt; 「うみをつくろう」 (生活科) ○海の情景を思い浮かべながら自然物や漂流物を使って、海で気付いたことを表現する。</p> <p>&lt;第三次&gt; 「うみをかこう」(図画工作科)</p>	<p>「いろいろなふね」(国語科)</p> <p>&lt;第一次&gt; 「のりもののことをしらべよう」 ○説明文「いろいろなふね」を読み、客船や消防艇等船の特徴を知る。</p> <p>&lt;第二次&gt; ○気仙沼湾に行き、海上保安艇を見学し、船の役割に興味をもつ。船の見学や職員への聞き取りを通して船の特徴を調べる。</p> <p>&lt;第三次&gt; ○図書とインタビューで調べたことをもとに、「ふねのひみつじてん」を作る。</p>		

海洋教育マトリックス

単独の教科領域等での学習

教科横断的活動

総合的な学習の時間

	海を知る	海に親しむ	海を知る	海を守る	海を利用する
2年生	水泳 ・ ライフセービング学習  (体育・学校行事)	<p>「ぼうけん！はっけん！からくわの海」 (学校行事・生活科・図画工作科)</p> <p>第一次「からくわのうみをたんけんしよう」(学校行事) ○唐桑舞根の海を訪れ、養殖いかだの様子を見たり、鳴り砂に親しんだりする。 ○漁師の話聞き、森と海のつながりについて知る。</p> <p>第二次「すごいぞ！からくわのうみ」(生活科)(図画工作科) ○唐桑の海の様子や体験したことをワークシートや手紙に表す。 ○森と海がつながり、多様な生物が生息する豊かな唐桑の海の様子を絵に表す。</p>			

	海を知る	海に親しむ	海を知る	海を守る	海を利用する
3年生	水泳 ・ ライフセービング学習  (体育・学校行事)	みらいに残そう面瀬のいきものたち (総合) <b>面瀬の生き物調査隊③</b> ・秋の面瀬川や河口に行き、川(汽水域)やサケの様子を観察する。			海藻肥料で野菜をつくろう (総合) <b>海藻肥料の特徴を学ぶ</b> 海藻肥料の特徴を知り、海藻を収集し栽培活動の準備をする。
			市の様子 (社会科) ○気仙沼市の特色ある地形や土地利用の様子を調べる。	水産工場に行こう (学校行事・社会科) ○地域には水産加工の仕事があることを知り、仕事の様子を見学する。(学校行事)  ○水産加工の仕事が自分たちの生活を支えていることや、仕事の特色、他地域などのかかわりを理解する。(社会科)	

	海を知る	海に親しむ	海を知る	海を守る	海を利用する
4年生	水泳 ・ ライフセービング学習  (体育・学校行事)		<p>山川里海の命を育む面瀬川（総合）</p> <p><b>面瀬川探検隊②～面瀬川のはじまりと終わりを探そう</b> ・面瀬川の源流から、河口までを探索し、面瀬川の使い方や山川里海のつながりを知る。</p> <p><b>面瀬川探検隊③～川や海を守るために自分たちができることを考えよう</b> ・地域の人は、川や海を守るためにどのような取組をしているのか調べる。 ・NPO「森は海の恋人」畠山信氏講話 ・自分たちができることを考え、新聞にまとめる。</p>		<p>気仙沼おにぎりをつくらう（総合）</p> <p><b>気仙沼おにぎりをつくらう</b> ・昔ながらの塩づくりを体験する。 ・サケの一生や体のつくりについて学習する。 ・気仙沼産の食材（塩、サケ、米）を使っておにぎりを作り、親子で味わう。</p>
			<p>「自然の中の水の姿」（理科） ○水は地面や水面から蒸発して水蒸気になることや、空気中の水蒸気は結露して水になることなど、「けあらし」等に対応させながら自然界の水のすがたの変化についての考えをもつことができる。</p>	<p>「水はどこから」（社会） ○川や森林の環境を守る人々の活動に関心をもち、自分からも節水や飲料水の再利用などの取り組みに協力しようとする。 ○活動に関心をもち、それを意欲的に調べ、地域社会の一員としてよりよい生活環境を考える。</p>	<p>「郷土の発展につくす」（社会） ○気仙沼でのり養殖をはじめた猪狩新兵衛に関心をもち、その働きや苦心によって地域の人々の生活が向上したことを理解するとともに、先人の努力によって発展してきた地域に対する誇りや愛情をもち、地域のよりよい発展について考えようとする。</p>

海洋教育マトリックス

単独の教科領域等での学習

教科横断的活動

総合的な学習の時間

	海を知る	海に親しむ	海を知る	海を守る	海を利用する
5年生	水泳 ・ ライフセービング学習  (体育・学校行事)		海と生きる気仙沼 (総合)		
<p>水産業のさかんな地域 (社会科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日本や地域の水産業に関心を持ち、水産業が自然環境を生かして営まれ国民の食生活を支えていることや、水産物には外国から輸入しているものがあること、主な漁場の分布、水産業に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ輸送の働きを理解するとともに、国民生活を支える水産業の発展について考えようとする。</li> <li>○気仙沼魚市場や周辺の水産関連施設、漁船を見学し、水産業の現状を調べ、調べたことを地図などにまとめる。</li> </ul>			<p>世界の中の国土 (社会科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○海に囲まれた日本の国土の概要を理解するとともに、地形の場所による違いや特色に関心を持ち、意欲的に調べる。</li> </ul>	<p>わたしたちの生活と森林 (社会科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「森や海の恋人運動」に代表される海に豊かな栄養をもたらす森林資源の働きと育成・保護の取り組みの様子を意欲的に調べる。</li> <li>○森林の役割や育成・保護に取り組む人々の工夫や努力を理解するとともに、環境保全のための国民一人ひとりの協力の必要性について考えようとする。</li> </ul>	<p>食べて元気に (家庭科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭生活に生かすためにおいしい米飯及びみそ汁の調理の仕方について考えたり工夫したりして計画を立てる。</li> <li>○カツオ節やにぼし等を活用した出汁の取り方を学び、魚食のよさを知り、生活に生かそうとする。</li> </ul>
			<p>かんきょうを守るわたしたち (社会科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○身の回りの生活環境や公害赤潮等の環境被害に関心を持ち、産業の発展や都市化の進展にともなって生じた公害や、それらから国民の健康や生活環境を守る取り組みの様子を理解する。</li> </ul>		

	海を知る	海に親しむ	海を知る	海を守る	海を利用する
6年生	水泳 ・ ライフセービング学習  (体育・学校行事)		魅せっぺプロジェクト (総合)		
地球とわたしたちの暮らし (理科) ○人の暮らしと空気や水との関わりについて, 日常生活の場面を具体的に想起しながら考える。			地球に生きる (理科) ○人が地球で暮らし続けていくために自分たちにできることがないか, 多面的に考える。	世界の未来と日本の役割 (社会科) ○海運にたずさわる人々や世界各地のつながり及び国際連合の働きについて, 具体的事例を通して意欲的に調べ, 世界平和の大切さと, 我が国が世界において重要な役割を果たしていることを理解する。	
大地のつくり (理科) ○地域の地層の観察結果や資料を基に, 地層の成り方を捉え, 具体例を挙げながら地層の成り方を推論し, 自分の考えを分かりやすく表現する。				工夫しようおいしい食事 (家庭科) ○米飯とみそ汁を中心とした3つのグループの食品のそろった1食分の献立について考えたり, 自分なりに工夫したりする。 ○かまぼこ等魚の加工食品の利用の仕方を学び, 生活に生かす。	
海のいのち (国語) ○海を舞台にした物語の人物の心情の変化を読み取り, 物語が自分に最も強く語りかけてきたことを考える。					
カツオ漁の歴史を知ろう (社会科) ○江戸時代のカツオ漁の様子や食文化, 現代に伝わる魚に関する伝承を知り, 自分たちと漁業のつながりについて考える。					

## 第5学年 総合的な学習の時間指導案

日 時 平成29年10月31日(火)

場 所 5年2組

### 1 大単元名 「海と生きる気仙沼」

### 2 大単元目標

気仙沼の基幹産業である水産業や水産物を支える環境(自然・人)、魚食について探究する活動を通して自分たちの生活が自然環境を生かし、地域の人々の努力に支えられながら成り立っていることに気付く。

地域が抱える課題やよさについて考えさせる活動を通して、未来に向けて主体的、創造的に生き、地域に貢献しようとする。

### 3 評価規準

#### 【関心・意欲・態度】

- 震災後の気仙沼の復興キャッチフレーズである「海と生きる」をテーマに、三陸復興国立公園の最南端に位置する岩井崎の磯辺の環境や復興著しい水産業に目を向けて自ら課題を設定し、必要な情報収集を進んで行い、課題の解決を目指す。
- 「海と生きる気仙沼」の未来の姿に思いをもち、地域の「ひと・もの・こと」とかかわり、調べたことを進んで発信する。

#### 【思考・判断・表現】

- 気仙沼の海の環境や水産業の様子、産業の復興に向けて意欲的に取り組む人から学んだことをもとに探究活動に生かし、探究課題の解決に向けて目的をもって情報を収集したり、調べたりする。また、考えたことや伝えたいこと等を目的に合わせて表現できる。
- 個人探究を通して、「海と生きる」とは何かを多角的・総合的に考える。

#### 【技能】

- 探究課題の視点に立ってインタビューや体験活動を行い、資料等を活用して学習したことをポスター等にまとめて表現できる。

#### 【気付き】

- 郷土の産業や自分たちの暮らしが恵まれた自然環境や人々の工夫や努力によって支えられていることに気付く。

### 4 単元について

#### (1) 単元観

私たちのふるさと気仙沼市は、古くから漁業の盛んな地域である。太平洋に面した沿岸域は、半島や複雑な入り江など、変化に富んだリアス式海岸を形成している。気仙沼湾は、四季静穏な天然の良港となっており、遠洋・沖合漁業の基地として全国の漁船が集積している。親潮と黒潮がぶつかる三陸沖では、潮目ができているため、条件のよい漁場となっている。そのため、気仙沼市は、カツオ、サメ、サンマ、メカジキ等において全国屈指の水揚げを誇っており、水産加工業や造船業なども盛んである。中でも気仙沼港の生鮮カツオの水揚げは、震災の影響を受けながらも、20年連続で日本一を達成した。湾内では、カキ、ホヤ、ワカメ、コンブ、ホタテなどの養殖漁業や定置網漁業などが営まれている。市内を流れる大川ではサケ遡上が見られ、卵から稚魚を育てて放流する、サケふ化放流事業が行われている。

このように水産業が基幹産業であることから、気仙沼市は「海と生きる」を震災復興計画のローガンとして掲げ、持続可能なまちづくりを推し進めている。震災により、水産業は壊滅的な被害を受けたが、震災に負けることなく立ち上がる地元の人々の努力とそれらを支える他の地域からの多大なる尽力によって、震災前の水準に戻ってきている。また、近年では、海水温の上昇などの気



候変動の影響からサンマ等の水揚げ量が大幅に減少するなど、世界規模での新たな問題点も生まれ気仙沼市にも打撃を与えている。

「海と生きる」気仙沼の水産業を理解する上では、水産業を水産物（魚や貝、海藻類）の生態や、それらを育む地形や海流などの自然条件、世界に広がる漁場、水産物の流通、食文化、震災後の復興、水産業の未来など、様々な事象を相互に関連させ、総合的に捉える視点が必要になってくる。

そこで、水産業を、気候や地形、海流などの自然環境、歴史や文化、水産業に携わる人、三陸の海の豊かさという視点から捉え、それを基軸として「海と生きる」をテーマに単元を構成し、実践することは、自分たちの住む気仙沼を深く見つめながら視野を広げ、自分とのかかわりを認識しながら多角的に物事を捉える力と態度を育むことにつながると考える。

## （2）児童の実態（在籍 男16名 女12名 計28名）

### ① 海や水産業にかかる意識

本学習にかかる意識調査（平成29年9月25日実施）では、これまでに海で遊んだ経験がある児童は26名（92%）と大半を占め、多くの児童が海水浴や釣りを経験したことがあると答えている。このことから多くの児童が海に親しみをもっていると言える。この背景には、震災から6年半が経過し、海水浴場や漁港の復旧が進んだことや児童の家族が精神的な面で落ち着きを取り戻したことが影響していると考えられる。

家族や親戚の中に海に関する仕事をしている人がいると答えた児童は15名（53%）であり、父親や祖父、叔父等が水産加工会社に勤務していたり、漁や養殖業を営んだりしているという答えが多かった。家庭で魚介類をよく食べる、食べると答えた児童は24名（85%）と多く、ほとんど食べない、食べないと答えた児童はだれもいなかった。魚を使った調理を経験している児童は13名（46%）であった。気仙沼港に水揚げされる水産物の名前としては、カツオ、サンマ、ワカメをあげる児童が多く、それぞれ、20名（71%）を超えていた。

このように、海や魚食に親しんでいながらも気仙沼湾で養殖業が行われていたことを昨年からは知っていたと答えた児童は15名（53%）であり、さらに、海に関する仕事を手伝ったことがあると答えた児童は6名（21%）程度であることから、実体験がほとんどなく、海で働く人々の工夫や努力を知っているとは言い難い。魚市場へ行ったことがあると答えた児童は21名（75%）と多かったが、実際に魚が市場に並んでいる様子を見たことがある児童はいない。また、震災後復旧工事が進んでいる気仙沼港周辺を歩いたことがある児童は、15名（53%）であった。

震災復興キャッチフレーズ「海と生きる」については、24名（85%）の児童が目にしたことがあると答えたことから、キャッチフレーズそのものは、児童に広く浸透していると言える。しかし、先に触れたように、海に関する仕事について実体験がほとんどなく、働く様子もあまり見たことがないことから、水産業は自然環境や人々の工夫や努力の上に成り立ち、自分たちの暮らしを支えている生産・経済活動であるということに気付いていない現状がある。

### ② 総合的な学習の時間の学習活動に関する実態

児童は、3、4年生の総合的な学習の時間において、「面瀬川の自然環境」や「面瀬川と生活のつながり」をテーマに地域学習を行ってきた。学習を通して、「地域のことや社会のいろいろな出来事に関心をもつようになった」「報告や発表など考えをうまく伝えられるようになった」と実感する児童が多かった。（平成28年度末意識調査の結果より）

その一方で「課題をとらえ、解決のための見通しや計画をたてられるようになった」「適切な情報を選択し、活用する力が高まった」と答えた児童は少なかった。

これらは、中学年の総合的な学習の時間の活動計画が教師主導で立てられていたり、探究活動の時間設定が十分でなかったりしたことが要因と考えられる。

児童の探究的な学習について、今年度は、探究課題を児童一人一人が設定したが、これまでに個人探究の経験は少ない。昨年度までの探究方法は、学年一斉に見学をしたり、見学先で質問をしたりすることが中心の協働の学習形態が中心であり、自分で選んだ図鑑や資料を活用したり、自分で取材活動をしたりしてまとめた経験はほとんどないと言える。したがって、自分で課題を設定する力や課題を解決するためにどのようなことをどのようにして調べていくかを考える力

は十分に育っていない現状がある。

### (3) 指導にあたって

以上のことから、次の点に留意して授業を構成し、展開していきたい。

#### ① 課題意識をもって学習できるような単元構成の工夫

- ・ 単元の導入時では、養殖業に関する特別企画展の見学や岩井崎の磯の生き物調査及び観察を行わせ、課題設定のきっかけを得られるようにする。
- ・ 児童一人一人が関心をもったことから探究課題を設定するための時間を設定する。
- ・ 探究課題の視点に立って海の市で取材を行わせたり、市場等の関連施設や水産関連会社を見学させたりすることを通して、課題意識を深め、課題解決のための情報を得られるようにする。
- ・ 課題を探究する中で自らが気付いたことや友達からの意見を基に、課題を見直し、探究意欲を高めることができる。
- ・ 類似した課題をもつ小グループでの中間発表を取り入れ、友達からの意見を個人探究に生かせるようにする。
- ・ 家庭や地域、お世話になった方々を招待しての発表場面を設定し、学習の成果を発信するようにする。
- ・ 1年間の活動の終末に、「海と生きる気仙沼」を見つめ直し、気仙沼の将来像について話し合う時間を設定する。

#### ② 「ひと・もの・こと」との関わりを大切にした体験活動や探究活動の設定

- ・ 総合的な学習の時間だけでなく、他教科、他領域との関連を図りながら、身近な地域素材である海や水産業に関する視点を取り入れ、児童が見通しをもって探究活動ができるような単元を構成する。
- ・ 社会科の水産業の学習や国語科や家庭科など他の教科との関連を図り、横断的な単元構成を行う。
- ・ 学芸員や水産試験場の専門家、大学の先生、地域で水産業に携わる人々、漁師から直接話を聞く機会を設定する。
- ・ 作業の様子や水産物を直接見て学ぶ機会を意図的に設定し、手紙等で学習したことと感謝の思いをゲストティーチャーに伝えられるようにする。
- ・ 校外学習後には、学んだことを同じ班の友達と協働でまとめる時間を設定し、共有化を図る。
- ・ 探究課題の解決に向けて、地域人材との関わりから解決の糸口を得られるようにする。

#### ③ 学習したことを基に実生活を見直すための指導の工夫

- ・ テレビや新聞、広報誌、パンフレットなどの情報から「海と生きる気仙沼」の情報を収集し、朝の会で児童に紹介したり、廊下に掲示したりして、学習環境を整える。
- ・ 学んだことの記録を累積し、個人探究を進め、海のフォーラムの際には、気仙沼の水産業の未来や「海と生きる気仙沼」への思いを書き出させ、他児童と考えを比較できるようにする。

## 5 年間指導計画（別紙1）

## 6 本時の指導

### (1) 本時の目標

- 類似した探究課題をもつ3人から4人の小グループの中で、これからの課題探究の方法と内容についてグループの友達に分かりやすく説明し、課題探究の方法と内容をより具体的に絞り込んでいく。

### (2) 目標達成に向けた主な手立て

- ① 本時の前に課題を探究していくための方法と内容を発表用シートに書き出しておくことで、友達の考えと自分の考えを比較しながら聞くことができるようにする。
- ② 話し合ったことをもとに今後何をどのようにして調べていくか考えるための時間を設定す

- ることで、課題を探究していくための方法と内容を具体的に絞り込むことができるようにする。
- ③ 類似した課題をもつ少人数グループで話し合うことで、一人一人の発言機会を確保するとともに、活発に意見交換できるようにする。(校内研究との関連)

### (3) 評価とその方法

評価規準	A (十分に満足できる)	B(おおむね満足できる)	C (努力が必要)
・事前に発表用シートに書き出した探究の内容と方法を具体的に言葉や図、資料等を用いて示すことができる。 <b>【思考・判断・表現】</b>	・発表用シートに書き出した探究の内容と方法について、具体的に言葉や図、資料を用いて示している。また、聞き手の質問に答えて説明することができる。	・発表用シートに書き出した探究の内容と方法について、具体的に言葉や図、資料等を用いて示している。	・発表用シートに書き出した探究の内容と方法を話すことはできるが、探究の内容や方法についての説明や資料の提示が不十分である。
			Cへの手立て ・同じグループの友達の発表のよいところを振り返らせ、ただ読むだけではなく、言葉や資料を補うとより分かりやすくなることを助言する。
・話し合ったことをもとに、自分の課題を探究していくための方法と内容を絞り込むことができる。 <b>【技能】</b>	・自分の課題を探究していくための方法と内容をより具体的にノートに書き加えることができる。	・自分の課題を探究していくための方法と内容をノートに書き加えることができる。	・自分の課題を探究していくための方法と内容をノートに書き加えることができない。
			Cへの手立て ・方法と内容をより具体的にノートに書き加えることができた児童のノートを紹介し、よい例を示す。

## 7 準備物

- 【教師】**・・・話し合いの流れを書いた模造紙 進行の手引き 付箋  
**【児童】**・・・発表用シート ポートフォリオ ノート

## 8 指導過程 (別紙2)

## 9 板書構造

<p>㊟ 友達と話し合い、これからの個人探究の方法と内容をよりよいものに見直そう。</p>	
<p style="text-align: center;"><b>【話し合いの流れ】</b></p> <p>目的：友達の個人探究をよりよいものにするためにアイデアを出す。</p> <p>①あいさつをする。</p> <p>②1人目が発表する（3分間）</p> <p>③発表をよりよいものにするためのアイデアをふせんにまとめる。（1分間）</p> <p>④ふせんにまとめたことをもとに意見交換をする。（2分間）</p> <p>⑤2人目以降も同じ流れで発表する。</p> <p>⑥時間があまったら、友達の発表をよりよいものにするために他にもアイデアを出し合う。</p>	<p style="text-align: center;"><b>【振り返り】</b></p> <p style="text-align: center;">ポイント</p> <p>発表用シートに書き出した探究の内容と方法を分かりやすく説明することができたか。</p> <p>自分の課題を探究していくための方法と内容をはっきりとさせることができたか。</p>

(別紙2) 8 指導過程

段階	主な学習活動	・指導上の留意点 ○目標達成に向けた手立て	評価 (方法)
導入 5分	<p>1 本時の学習内容をつかむ。 (1) 前時の活動内容を想起する。 (2) 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>友達と話し合い、これからの個人探究の方法と内容をよりよいものに見直そう。</p> </div> <p>○友達の発表を聞いて、たくさんアイデアを出しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・類似した課題をもつ少人数グループを作れるよう座席を指定しておく。</li> <li>・探究課題を解決するために今後調べていく方法と内容について、グループの友達に進んでアイデアを出し合う時間であることを押さえる。</li> </ul>	
展開 35分	<p>2 話合いの流れや目的を知る。 目的：友達の個人探究をよりよいものにするためにアイデアを出す。</p> <p>3 グループ毎に話合いを行う。 ○話合いを通して、友達のこれからの個人探究をよりよいものにできるようにしましょう。 (1) 類似した探究課題をもつ者で、3～4人の小グループを作る。 (3人グループ8つ、4人グループ1つ) (2) 発表は、1人につき3分間行い、話し合う時間を3分間確保する。(6分間×3～4人)</p> <p>4 意見をもらったことを整理し、これからの探究活動についてノートに記述する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話合いの流れや目的を示し、会の進行に見通しがもてるようにする。</li> <li>・司会に進行の手引きを渡し、話合いをスムーズに進行できるようにする。</li> <li>○類似した課題をもつ少人数グループで話し合うことで、一人一人の発言機会を確保するとともに、活発に意見交換できるようにする。</li> <li>○本時の前に課題を探究していくための方法と内容を発表用シートに書き出しておくことで、友達の考えと自分の考えを比較しながら聞くことができるようにする。</li> <li>・話し手には、発表用シートをグループ全員が見やすい位置に置かせて発表させる。</li> <li>・聞き手には、友達の個人探究をよりよくするためのアイデアを付箋に書かせ、発表後に説明しながらシートに貼らせる。</li> <li>○話し合ったことをもとに今後何をどのようにして調べていくか考えるための時間を設定することで、課題を探究していくための方法と内容を具体的に絞り込むことができるようにする。</li> </ul>	<p><b>【思考・判断・表現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に発表用シートに書き出した探究の内容と方法を具体的に言葉や図、資料等を用いて示すことができる。(発表用シート、行動観察)</li> </ul> <p><b>【技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合ったことをもとに、自分の課題を探究していくための方法と内容を絞り込むことができる。(ノート)</li> </ul>
まとめ 5分	<p>5 振り返りの視点をもとに本時の学習を振り返り、学習の振り返りを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてを達成できた数名の児童に学習の振り返りを発表させ、よさを広めるようにする。</li> </ul>	

# 発表用シート

名前

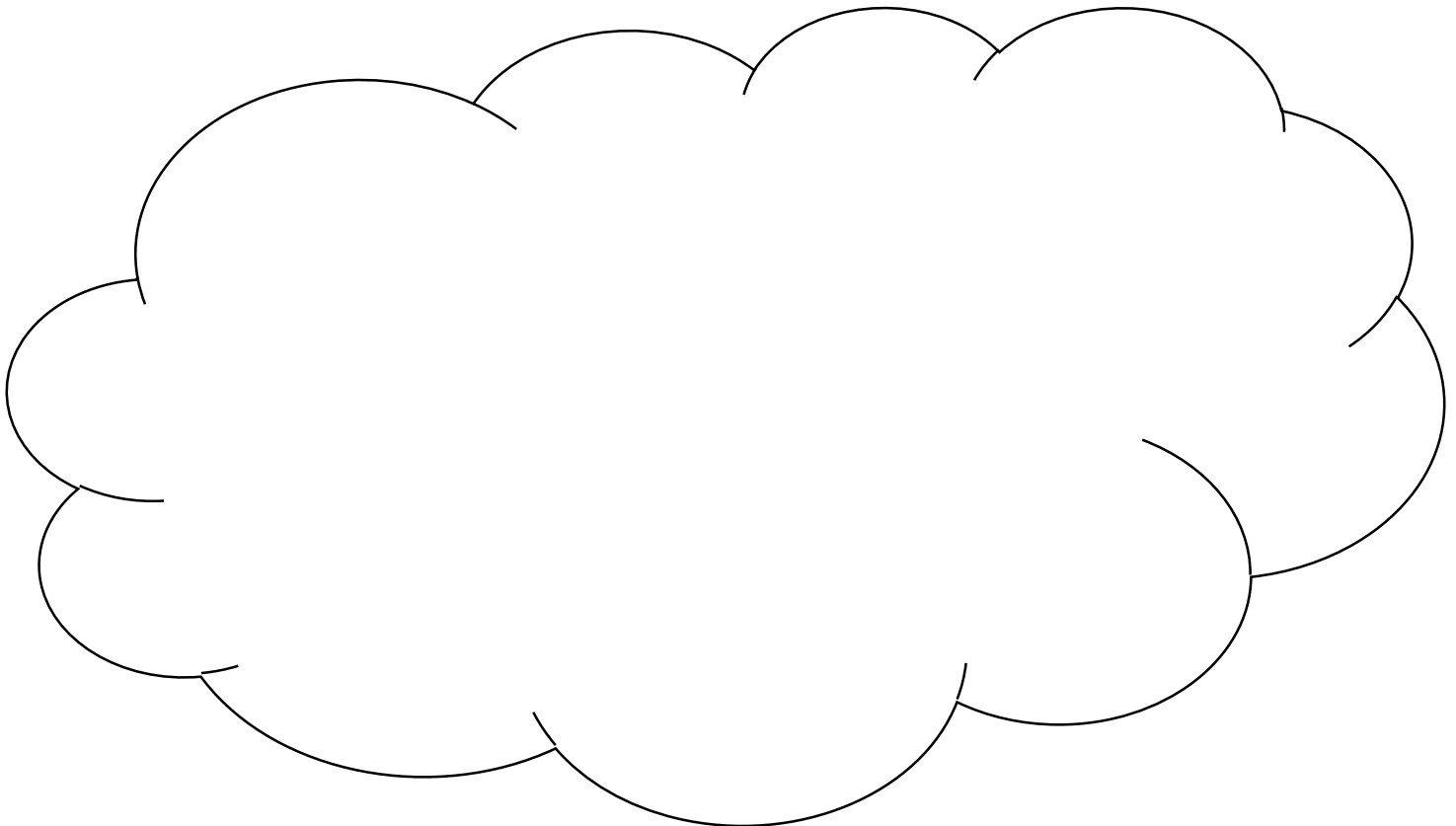
探究課題

  <hr/>  
-----------------------

探究課題を解決するために調べること

調べる内容 (どんなことを)	方法 (どのように)

友達の今後の個人探究をよりよいものにするためのアイデア



(別紙1) 5 年間指導計画 (70時間扱い 本時39/70)

クラス	段階	時間	児童の活動	個人探究との関わり	探究方法と資料	形態
① 自分たちの町 気仙沼を見つめよう	オリエンテーション	1	『気仙沼の震災復興キャッチフレーズ「海と生きる」とは』 ○「気仙沼と言ったら？」の問いに対して多様な意見を出し、気仙沼と海との関わりの深さに気付く。 ○震災復興キャッチフレーズ「海と生きる」を知り、気仙沼の人々が「海と生きる」ことを選択した理由を考え、海や水産業を素材に学習を進めることに興味をもつ。	◎年間の学習活動の概要を知る。	(★=体験活動) (☆=人材活用) (◆=調査活動) (◇=情報資料) ◇三陸新報の水産業に関するトップ記事を紹介する。	
	ふれる	8	『海の恵み調査隊・養殖企画展見学』 リアスアーク美術展の企画展に行き、気仙沼の内湾でさかんな養殖業について知る。	《共通体験①》 ◎興味をもったことを課題作りに生かす。 <児童の興味の対象> ・養殖業の歴史 ・養殖業の方法 ・人々の工夫や努力 ・三陸の海の豊かさ ・養殖業と食	★◆リアスアーク美術館企画展 ☆リアスアーク美術館学芸員萱岡氏	共通体験
	ふれる	8	『海の恵み調査隊・磯の生き物調査』 岩井崎の磯の生き物調べを行う。 水産試験場で見つけた生き物の名前や特徴を調べる。	《共通体験②》 ◎興味をもったことを課題作りに生かす。 <児童の興味の対象> ・生き物の生態 ・生き物の多様性 ・生き物の暮らし	★◆岩井崎の磯の生き物調べ ☆宮城県気仙沼水産試験場 斉藤氏	共通体験
	つかむ・見通す	3	『個人研究の課題を作ろう』 ○共通体験で感じたことを整理し、興味をもったことをグループで紹介し合う。 ○情報交換をもとに、課題を設定する。 ○設定した課題について、調べる具体的内容と方法等について学習計画を立てる。	《課題設定》 <個人研究課題の例> ・養殖業の歴史や方法 ・三陸の海の豊かさの秘密 ・三陸の食	◇リアスアーク美術館企画展パンフレット ◇まるかじり気仙沼ハンドブック	個人探究
調べる	1	夏休み個人探究オリエンテーション			◆自分の課題に関することについて、探究活動を行うことを知る。	個人探究
見直す	2	○夏休み個人探究オリエンテーションを経て調べる具体的内容と方法について、課題が似ている者どうして個人探究課題の見直しを図る。	《課題修正》 ◎自分の課題を見直し、友達の課題について、調べる内容や方法についてアドバイスをし合う。			個人探究

クラス	段階	時間	児童の活動	個人探究との関わり	探究方法と資料	形態
② 自分たちの町 気仙沼を調べよう	調べる	2	『気仙沼の水産物を調べよう』 ○海の市へ見学に行き、水産物の種類や産地等を調べる。また、水産物がどのように加工されて売られているかを調べる。 ○海の市の店員に水産物について、取材する。	《課題探究》 ◎個人探究課題に関することを中心に質問内容を組み立てる。	◆海の市で販売している水産物や加工品 ◆海の市で働いている人 ◆活動の記録写真	協働探究
	調べる	2	『気仙沼の水産業に関わる仕事を調べよう』 ○水産関連施設を訪問し、仕事の内容や働いている人の思いを取材する。	《課題探究》 ◎探究の視野を広げる。	◆藤田製函店 ◆岡本製氷 ◆足利本店	協働探究
	まとめる	2	『気仙沼の水産業の今を見つめよう』 ○校外学習での見学、調査で収集した資料や情報についてまとめる。	《課題探究》 ◎学んだことを共有する。		協働探究
	調べる	2	『三陸の海の豊かさの秘密を探ろう』 ○実験を通して、海流の仕組みや潮目について理解を深める。	《課題探究》 ◎課題探究の視野を広げる。	☆東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター丹羽先生	協働探究
	まとめる	1	『三陸の海の豊かさの秘密を探ろう』 ○丹羽先生との学習で分かったことを感謝の手紙に表現する。	《課題探究》 ◎学んだことを振り返る。		協働探究
③ 気仙沼をもっと深く調べよう	調べる	3	『個人探究をしよう』 ○1学期の体験活動や2学期の探究活動で分かったことをもとに、個人探究を進める。	《課題探究》 ◎探究活動を行う。 ＜探究内容の例＞ ・養殖 ・豊かな海 ・生物多様性	☆リアスアーク美術館学芸員萱岡氏 ☆宮城県気仙沼水産試験場 斉藤氏 ◇社会科資料集 ◇記録写真	個人探究
	まとめる	3	○学級内での発表を想定して発表用シートに個人探究の方法と内容を書き出し、発表原稿を準備する。	《課題探究》		個人探究
	見直す	1 本時	○類似した個人探究課題をもつ者どうしで話し合い、話し合ったことをもとに今後の個人探究の方法と内容を絞り込む。	《課題探究》	◇発表用シート ◇ポートフォリオ	個人探究
	見直す	1	『探究課題を見直そう』 ○話し合いの後に考えた探究活動の方向性について確かめ、今後の探究活動につなげる。	《課題修正》 ◎調べた内容に加除修正を加える。場合によっては、課題の一部を変更する。		個人探究

クラス レイ	段階	時間	児童の活動	個人探究との関わり	探究方法と資料	形態
④ ワカメ養殖を体験しよう	ふれる	4	『ワカメ養殖を体験しよう①』 ○ワカメ養殖体験を行うことを知る。 ○ワカメ養殖を行っている小野寺氏から講話をいただく。 ・ワカメの養殖方法 ・ワカメ養殖にかける思い ○ワカメの種はさみを体験する。	《共通体験③》 ◎個人探究課題との関連でワカメ養殖について考える。	☆マルセンワカメグループ小野寺氏 ◇リアスアーク美術館企画展パンフレット	共通体験
	まとめる	2	『ワカメ養殖を振り返ろう』 ○ワカメの種はさみで分かったことやこれから調べてみたいことをまとめる。	《課題探究》 ◎分かったことを個人探究に生かす。	◇リアスアーク美術館企画展パンフレット	個人探究
⑤ 海の恵みを味わおう	ふれる	4	『親子魚食料理教室をしよう』 ○これまでの学習を振り返りながら、気仙沼の水産物を使った料理を考案し、作ることができる。	《共通体験④》	☆宮城県北部鯉鮪漁業組合 ☆第5学年各家庭	共通体験
	まとめる	2	『親子魚食料理教室を振り返ろう』 ○魚食料理教室で分かったことや感じたことを振り返る。	《課題探究》 ◎分かったことを個人研究に生かす。		個人探究
	まとめる	5	『個人探究課題のまとめをしよう』 ○1学期の体験活動や2学期の探究活動等で分かったことをもとに、個人研究のまとめを行う。	《課題解決》	◇ポートフォリオ ◇これまでにまとめた資料	個人探究
⑥ 語ろう 誇ろう 気仙沼の町 気仙沼の海	ふれる	4	『ワカメ養殖を体験しよう②』 ○ワカメを収穫する。 ○収穫したワカメを試食する。 ○塩蔵ワカメを作る。	《課題探究》 ◎分かったことを個人探究に生かす。	☆マルセンワカメグループ小野寺氏 ◇リアスアーク美術館企画展パンフレット	共通体験
	表現する	4	『海のフォーラムを開こう』 ○1年間の学習の成果を発信する「海のフォーラム」について知る。 ○資料を作り、発表の練習を行う。			個人探究
	発信する	3	『海のフォーラム』 第1部 ポスターセッション 第2部 パネルディスカッション ○学校のホームページで地域へ発信する。	《課題発信》 ◎1年間の学習の成果を各家庭や関わってくださったゲストティーチャーの方々に向けて発信する。 《成果共有》	☆リアスアーク美術館学芸員萱岡氏 ☆宮城県気仙沼水産試験場 斉藤氏 ☆マルセンワカメグループ小野寺氏 ☆第5学年各御家庭	個人探究 ／ 協働探究
	振り返る	2	『海のフォーラムの振り返りをしよう。』 ○海のフォーラムでの発表を振り返り、「海と生きる気仙沼」について、学年で話し合う。	◎「海と生きる気仙沼」の見方や考え方がどのように変わったか話し合う。		個人探究





### 資料3 みやぎ食育大賞の取組

#### 「親子で気仙沼の魚のよさを学ぶ」 親子魚料理教室の取組

##### [活動の目的]

面瀬小学校と宮城県北部鯉鮪漁業組合が連携し、基幹産業である水産業と魚食のよさを親子で学ぶ活動（マグロ船見学と親子魚料理教室）を長年継続して実施している。これらの活動を通して、魚食の優れている点に気付かせ、自分の生活に進んで取り入れよう、海の資源や環境を大切にしようという気持ちをもたせ、実践に繋げることを目的としている。親子で一緒に料理をつくる機会と会食する機会になり、魚食を通じてふれ合える食育の場となっている。

地域や水産業に関する調べ学習に長いスパンで取り組んだ子供たちはもちろんのこと、親子魚料理教室に参加した保護者も魚の栄養価や生活が海に支えられ成り立っていることに気付き、魚や海への愛着を強くもつようになったことが感想からもわかる。

##### [活動内容]

##### 【活動開始年度と経緯】

平成16年度～（平成16年度以降、毎年実施している記録はある。それ以前にも行われていたかについては不明）

平成27年度までは、食材を「マグロ」に限定していたが、平成28年度からは、メカジキ、サンマ、カツオ等、気仙沼市場で水揚げされる水産物全般を利用対象としている。食材を広げたことで、気仙沼の海や山等の自然が育む食の豊かさや楽しさ、食文化に視野を広げさせることができたと考えている。

##### 【活動の対象】

面瀬小学校5年生児童及び保護者

【活動内容】 総合的な学習の時間と社会科、理科、家庭科との関連を図りながら活動する。（活動名「海と生きる気仙沼」）太字は、親子による食育活動

##### 第1次 「気仙沼の海を知る」

- ①地域の新聞に書かれている魚市場の記事を読み、水産業の現状を知る。
- ②魚市場や水産関連施設を見学し、気仙沼に水揚げされる水産物の種類や漁の方法、水産業を支える人々の仕事について調べる。

##### 第2次 「気仙沼の海の恵みを知る」

- ①宮城県北部鯉鮪漁業組合の協力でマグロ船を見学し、船の工夫や資源を守るための取組、漁師の苦労や工夫等を調べる。
- ②大学教授による「三陸の豊かな海」の特別授業を受講する。
- ③わかめ養殖を体験する。
- ④魚食の特色や魚と海藻の栄養価について調べ、気仙沼で水揚げされる魚や水産物を活用した料理（平成28年度は、「気仙沼丼」）を考える。
- ⑤親子料理教室を開催し、気仙沼で水揚げされた水産物を使った実習を行い、親子で一緒に味わう。

（平成28年度は、「気仙沼丼」と「さんまのつみれ汁」）

その際、宮城県北部鯉鮪漁業組合の職員が食材として利用された魚についての講話と調理の指導を行う。

##### 第3次 「海と生きる気仙沼 海洋フォーラムを開こう」

- ①学習成果を発表し、海や資源を守るために自分たちができることを考え、意見交換をする。

##### [活動の成果]

・水産業にかかわる学習を総合的な学習の時間と社会科、理科、家庭科の中に横断的・総合的に単元に組み入れたことで、環境－生産－流通－産業－食－健康という相互のつながりの中で児童は自分たちの生活と水産業のかかわりについて考え、豊かな三陸の海の恩恵によって地域の文化や生活が支えられてきたことに気付くことがで

きました。また、活動を通して海の恵みのすばらしさに気付き、水産業やそれに携わる人に感謝の気持ちをもつことができました。

・親子魚料理教室を通して、児童も保護者も魚の「食」としての価値に気付き、魚を家庭の食事に積極的に取り入れようとするなど、得られた知識を生活に生かそうとする様子が見られました。(別添「親子魚料理教室に参加した保護者の感想」参照)

[特記事項]

別添 「親子魚料理教室に参加した保護者の感想」



## 別添参考資料 「親子魚料理教室に参加した保護者の感想」

・今まで海の近くにいたものの、あまり深く考えた事はありませんでしたが、娘が授業で色々調べた事を教えてくれたりして、なるほど！へえーと思う事がありました。今後も身近な「海」について考えてくれればと思います。オリジナル気仙沼丼、つみれ汁とも、家ではあまり食べないので、貴重な時間でした。子供たちの一生懸命取り組む姿を見られうれしく思いました。

・総合的な学習の時間に気仙沼について学ぶことができるのはとても良いと思います。スライドで手本を見せていただいて、とても勉強になりました。実習に入り、秋刀魚のすり身は家とは違った味で、息子とつくってみようと思いました。子供たちがやったことのない体験をすることができたのが、料理教室で1番の思い出に残ったのではないかと感じました。このような機会をつくっていただき、ありがとうございました。

・保護者の方でも魚をさばいた事が無い方が多かったようなので、子供たちにとっても良い体験になったと思います。気仙沼の海の豊かさを実感する事ができたしとても勉強になりました。

・朝、新聞を開いて「魚」の記事を探したり、スーパーに並ぶ「魚」を見たり。何気ないことですが、海や魚のことを常に気にかける様子が見てとれます。これも、1年生の時から面瀬川に親しみ、4年生で山から川、そして海へのつながりを学び、今年「海と生きる」気仙沼にたくさん触れた結果なのだと思います。学ぶことには、一生終わりはありません。これからも、海のこと、気仙沼を学び、考え、創って行ってほしいと思います。面瀬オリジナル気仙沼丼は、とってもぜいたくな丼でした。提供してくださった北かつさんのおかげで実現したこと、大変ありがたく思います。魚に触ったことも、さばいたこともない娘が、秋刀魚をぎこちない手つきではありましたが、三枚におろすのを見て、うれしいやら、ヒヤヒヤするやら、複雑な思いでした。自分でさばくことで「命」をいただくことを感じてくれたらと思いました。

・気仙沼について、知っているつもりでいたのですが、まだまだ「知らない事がたくさんあるなあ」と思いました。親子料理教室では、我が子は、ふだんは料理の手伝い等しないので心配したのですが、わりとできていたので、これからは家庭でも色々な料理に挑戦させていきたいと思います。楽しい時間と、おいしい海鮮丼をありがとうございました。それと、生の魚が食べられない子がわりといたので驚きました。とは言っても私自身最近になって食べるようになりました。大人になってから改めて気仙沼の食材の豊富さに感謝したいと思います。

・気仙沼といえば、海があり港があり、マグロやさんまなどの魚が新鮮なイメージがあると思います。今回の企画で、海と触れ合い、漁港の皆さんと触れ合い、最後は実際に新鮮な魚を料理して食べてみた子供たちは、とてもいい経験になったかと思えます。また、参加した私たち父兄も、北かつさんの講話やデモンストラーションがすごく勉強になり、子供たちとも楽しく料理の時間がもてて充実した一日でした。今後、このような企画があれば、またぜひ参加したいと思います。

・4月より取り組んできた「海と生きる」をテーマに色々な事を体験し学びました。それが「気仙沼丼」となり、改めて気仙沼を身近に感じ良さも実感しました。それ以上に子供たちもそれぞれ得た物は大きな物となり、成長したと思えました。沢山の方々の協力に感謝します。

・普段、子供と一緒に料理を作る事があまり無かったのでとても良い経験になりました。また、自ら包丁を持って料理をする我が子の成長も見ることができたのでとても楽しい貴重な時間を過ごせました。ありがとうございました。

・ひとつのテーマから気仙沼の様々な現場に立ち合い、とても楽しみながら色々学習出来たのではないかと感じました。学習した事を理解したうえで、実際調理し、新鮮な魚を食べることの楽しさも感じられたのでは。気仙沼に生まれ育っている事を実感出来たと感じてくれていれば最高の学習だったと思えました。

・ふだん何気なく口にする魚ですが食卓に上がるまでにはいろんな人が関わっている事に改めて気付く事ができました。これからも、気仙沼で水揚げされた魚の料理教室を継続して行ってほしいです。

・私が子供の頃は、マグロ、カツオ、サンマは買って食べる物ではなく必ずというくらい船が入れば分け魚があり、カツオ、サンマの時期となれば大量にいただいてそれが当たり前の生活をしていました。魚が貴重なものに

なり、その魚をとるのにも色々な人が関わっている事を学び、親子料理教室で作った海鮮丼、さんまのつみれ汁はひときわ美味しくふだん食べなかった物もみんなで作った事で食べられるようになりとても良かったです。そして感謝していただきました。ありがとうございました。

・親子でゆっくり料理をしたことがなかったので、久しぶりに2人で楽しみました。魚の話を聞いていて、海と生きる気仙沼をしっかり勉強してきたんだなあと感心しました。小学生から地元の産業など勉強していく事はとてもすばらしい事だと思います。家の仕事の話も一緒につなぎながら会話をし合える事にびっくりもしています。

・子供たちは気仙沼を支える水産業について、体験を通しながら学び、親子料理教室では学びの中に出てきた魚を楽しくおいしく沢山いただくことができました。頭と胃で気仙沼の良さを吸収できて良かったです。ありがとうございました。

・これまでの様々な総合的な学習を通して、自分たちが住んでいる気仙沼に関心を持ち、気仙沼の良さをたくさん学ぶことができました。親子料理教室では、和気あいあいとした中で、おいしい海鮮丼とつみれ汁を作ることができ、気仙沼に生まれ育っていることに感謝の気持ちでいっぱいになりました。

・気仙沼で暮らしていながら、たまにしか魚を捌くことがないので子供と一緒にできるというのは本当に良かったです。ワカメの養殖体験やマグロ船、市場の周りの海に関わる仕事を学んで子供自身が気仙沼の魅力にも気付く、今回の料理で魚をもっと好きになり一緒に料理したり、話したり、本当にとっても良かったです。お友達と最高の丼を味わいこれからますます、気仙沼の海のことを、復興に欠かせない子供たちが次へと伝えてくれたら良いと思います。お疲れ様でした。

・普段親子で魚の調理をする機会がなかったのでプロの指導の下、親自身も勉強になり良い体験が出来ました。気仙沼はお魚も沢山あり、自宅でも食卓に度々出しますが生臭い骨が面倒臭い等、残すことも多いのですが、自分で調理したせいか、まだまだ得意になるには時間がかかりそうですが、完食もしてくれたので良かったです。改めて知ったこともあり、親子共々とても勉強になりました。

・「海と生きる」をテーマに多方面から「海」にまつわる学習、体験をさせていただき、保護者として感謝しております。今回の親子料理教室においても「これからの漁業」と題しての講話から興味深く参加させていただきました。海の町に住んでいながら初めて耳にすることも多く、それをふまえて調理したことでさらに有意義で楽しい時間となりました。たくさんの方々の御協力のもとでこのような経験、学習ができることを子に伝えていこうと思います。ありがとうございました。

・子供から話を聞くと、海との関わりについて学んでいるようです。自分なりに考え、何かを感じ取れているのでは…。親子料理教室は、包丁で魚を三枚おろしにさせた事がないのに、頑張ってやっていたのがビックリでした。

・気仙沼でとれる魚にはどんなものがあるか学べて良かったと思います。生のサンマを皮までおろす経験は、息子は初めてだったので、おっかなビックリしながらやっていたのが微笑ましかったです。

・講演を聞いて、子供たちと一緒に料理をして、いつもの魚や気仙沼がとても身近でステキに思えるようになりました。

・今まで気仙沼で生まれ育ってきて、分からなかった事がずいぶんあるんだなあと思いました。子供たちもいろんな事を学んで体験してこれからの気仙沼を盛り上げていてもらいたいです。